

The image shows a graphic design for SDGs badges. At the top, there is a decorative border made of small black dots and vertical bars. Below it, the title "SDGs バッジをつける意味と気をつけたいこと" is written in a colorful, sans-serif font. Underneath the title, there are three numbered sections: 01 SDGs の浸透につながる, 02 自分自身の意識が高まる, and 03 会話のネタになる. Each section contains an illustration and a descriptive text. The first section shows a person wearing a suit with a SDGs logo badge on the chest, with the text "ロゴマークを目にする機会が増える だけでも SDGs の認知度は広まる". The second section shows a person with a badge on their chest surrounded by icons like a battery, recycling, and a factory, with the text "ロゴマークが常に自分の目に入ることで、 SDGs の意識を常に持つようになる". The third section shows two people talking with speech bubbles, with the text "相手もついていると親近感が湧き、距離も縮まりやすくなる". At the bottom left, there is a small icon of a pencil and the text "SDGs バッジをつけるときに気をつけたいこと". Below that, there are two bullet points: "バッジをつけるときは、「SDGs ウォッシュ」(SDGs に取り組んでいるように見せかけている) と言われないように気をつけること" and "SDGs の意味を理解し、実際に行動することが何より大切". The entire design is framed by a gold-colored border.

SDGs バッジをつける意味と気をつけたいこと (デザイン: 吉田咲雪)

SDGs の浸透に伴いカラフルなロゴマークを見かける機会が増えました。このロゴマークの「バッジ」を胸元につけている人を見かけたことはあるでしょうか。

SDGs バッジとは

SDGs バッジとは、その名の通り SDGs のロゴマークをバッジにしたものです。多くの場合、SDGs に関するロゴのうち、17 目標のアイコンの色をドーナツ状に並べた「カラー ホイール」のデザインを使っています。



SDGs のカラー ホイール



SDGs バッジの例。ピンバッジ式のほか、マグネット式のものもある

近年は多くの政治家や芸能人がついているため、テレビなどで目にする機会も増えています。例えば、K-POP グループの「BTS」のメンバーが、2021 年 9 月に開かれた国連総会でスピーチを行った際に、SDGs バッジを胸元につけて登場したことも話題を呼びました。



国連総会議場で演説する BTS のリーダー、RM さん＝2021 年 9 月、米ニューヨークの国連本部。
(撮影・朝日新聞)

こうした情報から「SDGs バッジは著名人だけがつけるもの」という印象をお持ちの方もいるかもしれませんね。しかし、答えはもちろん「NO」。SDGs バッジは、どなたでも入手し装着することができます。実際に多くのビジネスパーソンが着用しているだけでなく、企業が率先して社員に着用を促しているケースもあります。具体的な事例として、ANA グループでは 2020 年から客室乗務員などが SDGs バッジを着用している他、三井住友信託銀行では 2019 年から社員全員がバッジを着用するなど、全社的に力を入れて取り組んでいます。また、SDGs バッジと言えば胸元につけていたる印象が強いですが、細かなルールがあるわけではありません。衣服だけではなく、ネクタイやカバンなどの小物にアクセサリー感覚で着用することもできます。



ANA グループでは客室乗務員などが SDGs バッジを着用する。

(ANA ホールディングス提供)

SDGs バッジをつける意味

SDGs バッジはさまざまなシーンで見られるようになってきています。SDGs バッジをつけることには、どんな意味があるのでしょうか。

SDGs の浸透につながる

SDGs バッジをつけると多くの人の目に触れるようになります。そのなかで「街でよく見

かける虹色のロゴマーク、あれは一体何なのだろう」と気になった人が聞いたり調べたりして SDGs を知る、ということもあるでしょう。また、自分がバッジをつけることで SDGs に詳しくない周囲の人々に SDGs を知ってもらうことにもつながっていくのです。

ビジネスシーンにおいても SDGs バッジをつけることで、その企業や団体が SDGs に積極的に取り組んでいることを PR できます。昨今、世界的に ESG 投資に注目が集まり、企業経営においても SDGs に対する考え方や具体的な取り組みについて、外部に開示する動きが活発化しています。SDGs バッジはそういう企業の意思表示としても役立っているといえるでしょう。

自分自身の意識が高まる

SDGs バッジを身につけると、鏡を見たときなど、ロゴマークを自分で目にする機会がおのずと増えます。そのたびに自分自身の SDGs に対する意識が高まるのも、SDGs バッジがもたらす効果です。

また、企業としての意向で着用する場合は、全社的に SDGs に取り組む方針を社員が実感しやすくなるほか、皆で同じ物を身につけることで社員どうしの一体感が高まるといった副次的な効果も期待できます。

会話のネタになる

誰かと会ったときに相手も SDGs バッジを身につけていたら、多くの人は SDGs バッジについて指摘し SDGs の話題で盛り上がるのではないか。プライベートでもビジネスシーンでも初対面の人と会ったときは最初に少し雑談を挟むことがあります。天気や出身地など定番のネタも良いですが、このタイミングで SDGs の話題に触れられたら、更に親近感が湧きお互いの距離がグッと縮まるはずです。SDGs は世界共通の概念のため、国際交流の場面においても SDGs バッジが会話のネタとして一役買ってくれるでしょう。

SDGs バッジを購入する方法

SDGs バッジをつけると SDGs の普及に貢献できるだけでなく、自分自身の意識の変化や会話のきっかけを得られるなど自分自身に対してもメリットがあります。そんな SDGs バッジは主に次のような方法で購入可能です。

国連の関連ショップで購入する

確実に正規品を手に入れる場合は、国連の関連ショップで購入するのがおすすめです。ニューヨークの国連本部にあるギフトショップで販売もしていますが、現地に行かなくてもネットで簡単に手に入れることができます。国連開発計画(UNDP)公式ホームページでは 2 個セットで購入できます。海外からの発送になるため別途送料がかかる点と、公式ホームページが英語表記である点に注意しましょう。

大手通販サイト

日頃ネット通販をよく活用する人にとってなじみのある Amazon や楽天市場、Yahoo!ショッピングなどでも SDGs バッジを購入することができます。各通販サイト内で「SDGs バッジ」と検索すれば複数の商品を一度に確認できる為、価格などを比較検討したい場合は最も便利な方法です。

joinsdgs

「正規品で安心して買える、おしゃれな SDGs バッジを作る」というビジョンを掲げる、株式会社ルカコの「joinsdgs」でも SDGs バッジを購入できます。サイズは一般的な 25mm よりもやや小さい 22mm で、やや厚みをもたせて作られているのが特徴。気軽につけやすいコンパクトサイズながら、重厚感のあるバッジで、価格は 1 個 1980 円（税込み）です。

偽物に注意　本物（正規品）とそれ以外を見分ける方法

SDGs バッジを購入する際に気をつけなければならないことがあります。それは、残念ながら国連のガイドラインに準拠していない“偽物”も市場に多く出回っていることです。

国連本部や国連のホームページからなら間違いなく“本物”が手に入りますが、もしそれ以外のところから購入する場合は、念のため「国連の SDGs ロゴ使用に関するガイドラインに準拠し、国連から使用許諾を得たうえで制作・販売されているかどうか」をチェックするようにしましょう。

SDGs バッジを実際につけるときは

「SDGs ウオッシュ」という言葉を聞いたことがありますか。「SDGs ウオッシュ」とは、実際には SDGs に取り組んでいないのに SDGs に取り組んでいるかのように見せることを批判的に言い表したもので、似た言葉としてビジネス目的であたかも環境によりサービスや商品であると消費者を誤解させる「グリーンウォッシュ」も以前から使われています。

SDGs バッジをつけることは SDGs を実現するためにアクションしていくという意思表示です。ただ「カッコ良いから」「おしゃれだから」「はやっているから」という理由だけで何の行動もしていなければ、「SDGs って何だからうさん臭い」というイメージを助長してしまう可能性があります。最後に、SDGs バッジを実際につけるときに気をつけたいことをご紹介します。

バッジの意味や自分の取り組みを説明できるようにしておく

SDGs バッジを身につけるときは、他の人から「そのバッジは何?」「具体的にどんなことをしているの?」と質問されたときにきちんと回答できるようにしておくといいでしよう。人にどう説明するかを考えることで、自分がまだ理解しきれていない部分に気づけます。目標達成のためにこれから何をすべきなのか、具体的な道筋も見えてくるはずです。

社内浸透への取り組みを欠かさず行なう

企業の方針として全従業員に SDGs バッジの着用を推奨しているケースでの注意点としては経営層あるいは SDGs 推進部署以外の社員の理解が得られているかを確認することです。最も課題に感じられるは会社としての方針と一般社員の認知度や意識の差です。会社として SDGs に取り組もうとしている姿勢は重々わかっていても、それをただ掲げるだけでは社員の理解や納得を促すことはできません。

「SDGs バッジをつけることになったけれど、なぜつけなければいけないのか分からない」「本当は SDGs なんて興味がないのに……」と社員が感じているようであれば、全社的に取り組む意味が全くありません。まさに「SDGs ウオッシュ」にもつながってしまう可能性があります。

企業として SDGs バッジの着用を促す場合は、あわせてその目的や背景、バッジに込める思いなどをきちんと社内浸透していく必要があるでしょう。



SDGs バッジ

大切なのは SDGs の意味を理解し、行動すること

SDGs が世の中に浸透してきたからこそ、SDGs バッジについてもメリットだけでなく、デメリットも言及されることがあります。SDGs に対して自分なり、あるいはその会社なりの考えを持ち、実際に行動に移すことができていれば、SDGs バッジをつけてアピールせずとも周囲の理解を得ることは可能です。マイバッグを欠かさず持参したり、プラスチックのストローは使わずステンレス製のストローを使ったりするなど、小さなことから行動する

ようには意識してみましょう。大事なのは SDGs バッジをつけることではなく、SDGs の意味を理解し行動することです。理解や行動が伴っていないままつけてしまうと周囲から厳しい目で見られる可能性もあります。「自分はアクションを起こせているか」という点を考えてから、バッジをつけるかどうか検討してみるとよいのではないでしょうか。